

青年が抱く中年イメージと高齢者イメージ¹⁾

— 日本とカナダのデータより —

筑波大学心理学系 河野 理恵

筑波大学心理学系 太田 信夫

Images of middle-age and old age held by young adults: Japanese and Canadian data

Rie Kawano and Nobuo Ohta (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan*)

The purpose of this study is to examine what kind of images young adults have regarding middle age and old age, as well as the images of how they will be when they themselves are in middle age or old age. A questionnaire was administered to 322 Japanese and 32 Canadian undergraduate students. The results indicated that the Japanese respondents have more negative images regarding middle and old age than the Canadian respondents. Compared to their images regarding middle and old age, both the Japanese and the Canadian respondents held more positive images about when they themselves would be in middle age and old age.

Key words: Images of middle-age, Images of old age, Japanese and Canadian

問題と目的

現在、わが国は、今までに経験したこともないような先行き不透明な時代である。他国に類をみないスピードで高齢化が進行し、全体の人口に65歳以上の人口が占める高齢化率は、2000年では17.4%であり、わが国は高齢社会となっている。厚生労働省による高齢化率の将来推計の試算では、2010年に22.5%、2020年には27.8%となり、4人に1人が高齢者となる超高齢社会時代もそう遠くはない。また、日本経済はバブル崩壊、株価低下と不況の波が押し寄せ、2000年には完全失業率が4.9%と過去最大にまで達し、アメリカの完全失業率を越えるまでになっている。大きくその憂き目にあっているのは企業の倒産、リストラなどで離職し、再就職が果た

せない中高年であると言えよう。このような高齢者が増加し、中高年に厳しい社会において、現代の青年は高齢者や中年に対してどのようなイメージを抱いているのであろうか。

従来、わが国には高齢者や家長である年長者、親を敬う敬老思想が存在した。しかしながら、戦後の家族制度の廃止によって、それまでの高齢者や年長者の地位や威厳は低下し、現在では、高齢者や年長者がその存在のみによって敬われる意識は薄れていると指摘できる。また、追い討ちをかけるように高度経済成長の時期あたりから、何かを生産でき、役に立つこと、いわゆる「生産性」や「効率性」に価値が置かれるような風潮になっており、世代としては青年世代がもっとも価値ある世代として注目されるようになってきているのではないだろうか。このことは現代の「若者信奉」につながっており、高齢者や中年には価値が置かれない社会体質になっていると考えられる。

このようなことを例証するように、従来の高齢者

1) 本論文の一部は、2002年にカナダで行われた Changing Japanese Identities in Multicultural Canada Conference にて発表されたものである。

のイメージ研究では、大学生は高齢者に対してネガティブなイメージをもっていることが明らかにされている。佐藤・長島(1976)は、老人に対するイメージを自由記述で調査したところ、「さびしい、やさしい、暗い、弱い」などの形容詞が大半であった。また、保坂・袖井(1988)の調査でも、大学生は高齢者に否定的、消極的なイメージをもつということが指摘されている。しかし、その調査では、高齢者には、「温かい、優しい」といった肯定的イメージももっていることが明らかになっている。その傾向は男性よりも女性でより顕著であった。さらに、小泉・上本(1990)は看護実習に反映させるため、看護学生が高齢者に対してどのようなイメージを抱いているかを検討したところ、高齢者イメージには身体的な特徴が強く影響していることを明らかにした。一方、中年に対するイメージの調査では、東山(1992)が大学生のレポートの中で中年のイメージを検討したところ、「渋さと不潔さ、落ち着きと恥じらいのなさ、親切とお節介焼き」などという、魅力と嫌悪、長所と短所が並存しあっているということを明らかにしている。しかしながら、中年に対するイメージの調査は数少なく、青年が中年に対してどのようなイメージをもっているのかという検討がさらに必要であると考えられる。このような中年に対する研究の少なさは、これまでの心理学において、大学生までの者に対する研究と高齢者に対する研究は精力的に行われてきたものの、40、50代の中年者に対する調査、研究の着手が行われてこなかったということを示唆するものである。そのため、中年世代のイメージ調査、もしくは中年世代を調査対象とする研究が急務であると考えられる。

そこで、本研究では、今後の社会を担う青年は高齢者や中年にどのようなイメージを抱いているのかを明らかにすることを目的とする。さらに、自分が高齢者や中年になったときにはどのようなイメージを抱いているのかの調査を行い、現在の中年や高齢者に対するイメージを顕著にしていくものとする。

方 法

1. 調査対象者

日本：茨城県内の大学、及び専門学校の学生322名(男性171名、女性161名)。平均年齢18.9歳。カナダ：Victoria大学の学生32名(男性12名、女性20名)。平均年齢20.1歳。

2. 調査時期

2002年5月から6月。

3. 質問紙

調査対象者に、性別、年齢、高齢者と同居しているかなどを質問後、中年、高齢者、自分が中年になった時、自分が高齢者になった時のイメージをSemantic Differential法を用いて20対の形容詞それぞれに7件法で回答を求めた。各年齢設定が異なることを避けるため、中年は40歳代、高齢者は70歳代の者をイメージするように指定した。具体的には、以下のものであった。1) 中年のイメージ(以下、中年)：「40歳代の平均的な人のイメージ」はどのようなものを評定させた。2) 高齢者のイメージ(以下、高齢者)：「70歳代の平均的な人のイメージ」はどのようなものを評定させた。3) 自分自身が中年になった時のイメージ(以下、自分中年)：「自分自身が40歳代になった時のイメージ」はどのようなものを評定させた。4) 自分自身が高齢者になった時のイメージ(以下、自分高齢者)：「自分自身が70歳代になった時のイメージ」はどのようなものを評定させた。なお、本調査で使用した20対の形容詞は、保坂・袖井(1988)の大学生の高齢者イメージの調査において、形容詞50対の因子分析の結果得られた6因子より、各因子を代表すると考えられる形容詞、ならびに意味が多義的でない、他のものと意味が重ならないという基準で選択した形容詞20対であった。

4. 手続き

日本では、心理学の授業の一部において集団調査を行った。カナダでは、インターネットを使用して調査を行った。

結 果

20対の形容詞のポジティブな側面へ「非常にあてはまる」場合を7点、形容詞のネガティブな側面へ「非常にあてはまる」場合を1点として得点化した。日本における中年、高齢者、自分中年、自分高齢者の平均値と標準偏差をTable 1に、カナダにおける中年、高齢者、自分中年、自分高齢者の平均値と標準偏差をTable 2に示す。

その後、日本の青年について、中年と高齢者のイメージ比較、中年と自分中年のイメージ比較、高齢者と自分高齢者のイメージ比較のためにt検定を行った(Table 3)。その結果、中年と高齢者のイメージ比較において、16項目で有意差が見られた(Fig. 1)。特に、中年と比較して高齢者には「あたたかい、暇そう、優しい」というイメージが見受けられた。また、中年と自分中年のイメージ比較にお

Table 1 日本の青年における中年，高齢者，自分中年，自分高齢者イメージの平均値と標準偏差

	中年		高齢者		自分中年		自分高齢者	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
愚かなーかしこい	4.11	1.06	4.49	1.34	4.31	1.16	4.20	1.40
受動的ー能動的	3.93	1.17	3.69	1.41	4.21	1.30	3.85	1.45
厳しいー優しい	3.57	1.13	4.83	1.57	4.37	1.36	5.02	1.45
灰色ーばら色	2.89	1.13	3.70	1.45	4.29	1.43	4.12	1.63
ひまそうー忙しそう	4.93	1.41	2.58	1.28	4.85	1.45	2.75	1.37
悲観的ー楽観的	3.55	1.25	4.28	1.44	4.55	1.47	4.54	1.51
保守的ー進歩的	2.95	1.27	2.83	1.28	4.21	1.36	3.58	1.43
劣ったーすぐれた	3.85	1.13	3.63	1.36	4.25	1.21	3.78	1.40
主観的ー客観的	4.01	1.28	3.87	1.48	4.14	1.38	4.20	1.45
いばったーへりくだった	3.46	1.32	4.00	1.23	4.04	1.00	4.19	1.05
冷たいーあたたかい	4.08	1.19	5.58	1.12	4.81	1.28	5.28	1.32
反発ー同調	3.99	1.30	4.45	1.27	4.38	1.15	4.53	1.26
閉鎖的ー開放的	3.73	1.26	3.87	1.46	4.56	1.39	4.41	1.60
不満ー満足	3.24	1.15	4.01	1.30	3.91	1.49	4.15	1.61
にぶいーするどい	3.35	1.23	2.96	1.44	4.16	1.40	3.37	1.49
感情的ー理性的	4.03	1.27	4.17	1.47	4.00	1.44	4.13	1.48
魅力のないー魅力のある	4.80	1.36	4.02	1.45	3.85	1.36	4.07	1.49
悲しいーうれしい	4.61	0.98	4.14	1.19	3.95	1.47	3.92	1.50
弱々しいーたくましい	4.15	1.23	5.07	1.51	3.60	1.37	4.54	1.52
低俗なー高尚な	4.18	0.93	3.68	1.17	3.80	1.06	3.87	1.17

Table 2 カナダの青年における中年，高齢者，自分中年，自分高齢者イメージの平均値と標準偏差

	中年		高齢者		自分中年		自分高齢者	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
愚かなーかしこい	5.28	1.08	6.00	1.27	5.22	0.83	6.00	0.92
受動的ー能動的	4.91	1.30	3.19	1.64	5.50	1.19	4.09	1.44
厳しいー優しい	3.81	1.40	4.63	1.88	4.91	1.28	5.22	1.18
灰色ーばら色	4.28	0.92	3.19	1.71	4.84	0.99	3.75	1.70
ひまそうー忙しそう	5.63	1.16	2.00	0.72	4.88	1.74	2.44	1.16
悲観的ー楽観的	4.47	1.08	4.53	1.54	5.28	1.02	5.00	1.19
保守的ー進歩的	3.59	1.43	2.38	1.18	4.97	1.20	4.19	1.47
劣ったーすぐれた	4.53	0.98	4.00	1.44	4.84	0.88	4.53	1.11
主観的ー客観的	4.16	1.30	4.03	1.43	4.50	1.44	4.19	0.93
いばったーへりくだった	4.13	1.04	4.72	1.35	4.69	1.26	4.91	1.15
冷たいーあたたかい	5.03	1.15	5.53	1.29	5.59	0.98	5.59	1.07
反発ー同調	4.22	1.39	4.25	1.55	5.19	1.06	5.06	1.34
閉鎖的ー開放的	4.34	1.41	4.06	1.79	5.47	0.84	5.00	1.27
不満ー満足	4.69	1.38	4.59	1.70	5.28	1.11	5.38	1.13
にぶいーするどい	5.06	1.16	3.81	1.57	5.66	0.79	4.78	1.26
感情的ー理性的	3.19	1.38	3.97	1.71	4.03	1.56	4.22	1.50
魅力のないー魅力のある	3.44	1.19	3.75	1.34	2.78	1.07	3.44	1.13
悲しいーうれしい	3.29	1.27	3.50	1.52	2.59	1.21	2.72	1.17
弱々しいーたくましい	2.94	1.24	4.59	1.56	2.69	1.20	4.13	1.43
低俗なー高尚な	3.00	0.80	2.47	1.11	3.13	1.10	3.06	1.32

Table 3 日本とカナダにおける各比較でのt検定の結果

	日本			カナダ		
	中年と 高齢者	中年と 自分中年	高齢者と 自分高齢者	中年と 高齢者	中年と 自分中年	高齢者と 自分高齢者
愚かなーかしこい	-4.09**	-2.36*	3.21**	-2.49*	0.34	0.00
受動的ー能動的	2.27*	-3.11**	-1.83	5.46**	-2.09*	-3.73**
厳しいー優しい	-11.93**	-8.83**	-1.99*	-2.37*	-4.84**	-1.80
灰色ーばら色	-8.93**	-14.68**	-4.71**	3.93**	-2.74*	-2.68*
ひまそうー忙しそう	22.41**	0.64	-1.98*	16.23**	2.19*	-1.99
悲観的ー楽観的	-7.19**	-10.11**	-3.24**	-0.22	-3.91**	-2.46*
保守的ー進歩的	1.64	-12.08**	-8.28**	4.54**	-4.10**	-6.13**
劣ったーすぐれた	2.65**	-4.53**	-1.71	0.10	-1.31	-2.09*
主観的ー客観的	1.23	-1.15	-3.22**	0.42	-0.99	-0.48
いばったーへりくだった	-5.43**	-6.36**	-2.55*	-2.83**	-2.15*	-1.24
冷たいーあたたかい	-17.37**	-8.50**	4.32**	-2.07*	-2.29*	-0.37
反発ー同調	-4.53**	-4.50**	-1.04	-0.12	-4.36**	-2.85**
閉鎖的ー開放的	-1.41	-8.34**	-5.70**	0.87	-4.03**	-2.70*
不満ー満足	-8.48**	-6.62**	-1.59	0.39	-2.27*	-2.69*
にぶいーするどい	4.12**	-8.45**	-4.50**	3.94**	-2.65*	-3.35**
感情的ー理性的	-1.25	0.39	0.29	-2.16*	-2.31*	-0.80
魅力のないー魅力のある	7.90**	9.70**	-0.44	-1.41	2.69*	1.67
悲しいーうれしい	6.09**	7.42**	2.69**	-1.25	3.26**	3.09**
弱々しいーたくましい	-8.85**	5.92**	5.76**	-3.84**	1.27	1.59
低俗なー高尚な	6.16**	5.14**	-2.68**	3.16**	-0.58	-2.15*

* $P < .05$ ** $P < .01$

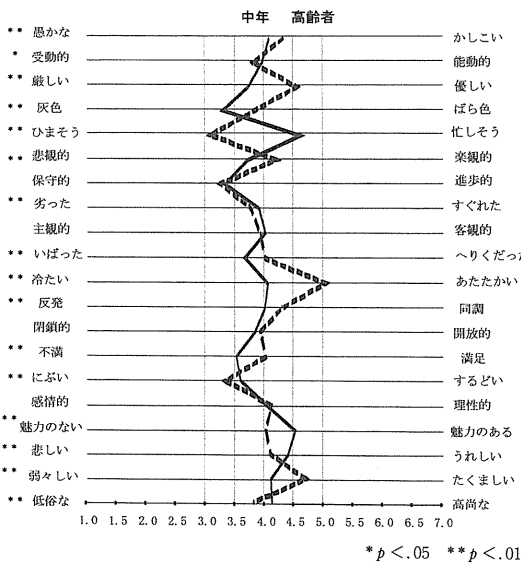


Fig. 1 日本における中年と高齢者のイメージの比較

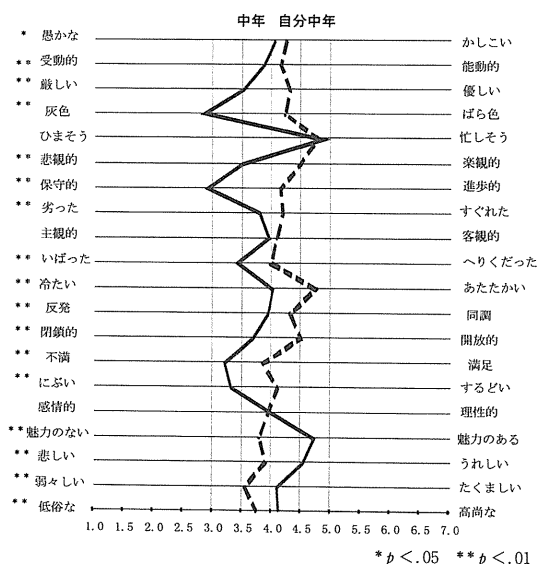


Fig. 2 日本における中年と自分中年のイメージの比較

いて、17項目で有意差が見られた (Fig. 2). 青年は現在の中年と比較して、自分が中年になった時、全体的にポジティブに評価していることが見受けられた。特に、「バラ色、楽観的、進歩的」というイメージを抱いているようであった。そして、高齢者と自分高齢者のイメージ比較において、14項目において有意差が見られた (Fig. 3). 青年は現在の高齢者と比較して、自分が高齢者になった時、全体的にポジティブに評価していることが見受けられた。特に、「開放的、進歩的、にぶくない」という評価をしていた。

次に、カナダの青年について、日本の青年と同様、中年と高齢者のイメージ比較、中年と自分中年のイメージ比較、高齢者と自分高齢者のイメージ比較のためにt検定を行った (Table 3). その結果、中年と高齢者のイメージ比較において、12項目で有意差が見られた (Fig. 4). また、中年と自分中年のイメージ比較において、15項目で有意差が見られた (Fig. 5). 青年は現在の中年と比較して、自分が中年になった時、全体的にポジティブに評価していることが見受けられた。特に、「優しい、楽観的、進歩的」というイメージをもっているようであった。そして、高齢者と自分高齢者のイメージ比較において、11項目において有意差が見られた (Fig. 6). 青年は現在の高齢者と比較して、自分が高齢者になった時、全体的にポジティブな評価をしている

と言えた。

さらに、日本とカナダの青年において、中年と高齢者のイメージ比較、中年と自分中年のイメージ比較、高齢者と自分高齢者のイメージ比較のために分散分析を行った (Table 4). その結果、中年のイメージ比較において、日本の青年はカナダの青年よりもほとんどの項目において、ネガティブな評価をしているということが明らかになり、17項目で有意差が見られた (Fig. 7). 次に、高齢者のイメージ比較において、7項目において有意差が見られたものの、両国ともポジティブとネガティブのイメージがほぼ均等であったと言える (Fig. 8). また、自分中年のイメージ比較において、日本の青年はカナダの青年よりも全体的にネガティブに評価していると言え17項目において有意差が見られた (Fig. 9). また、自分高齢者の比較では、日本の青年はカナダの青年よりもややネガティブに捉えていると言え、11項目において有意差が見られた (Fig. 10). すべての分析における全体的な特徴を Table 5に示した。カナダにおける調査人数は少ないけれども、概してカナダの大学生は日本の青年よりも中年や高齢者をポジティブに捉え、自分がその年代になった時も、ポジティブなイメージを抱いていることが明らかになった。

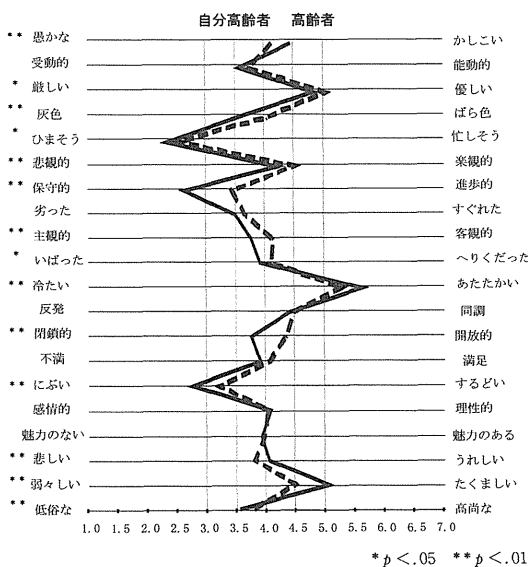


Fig. 3 日本における高齢者と自分高齢者のイメージの比較

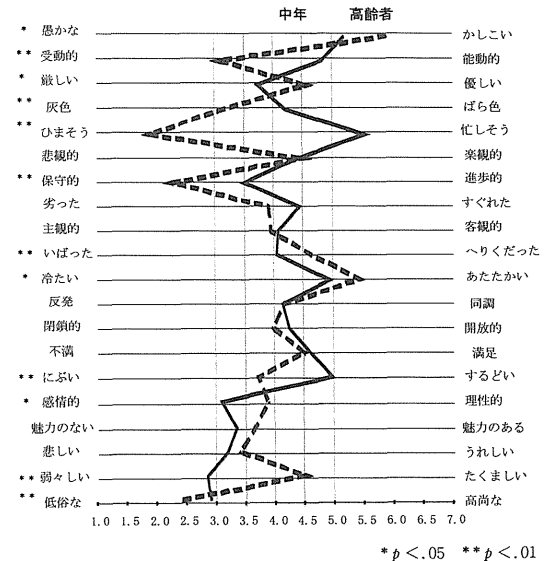


Fig. 4 カナダにおける中年と高齢者のイメージの比較

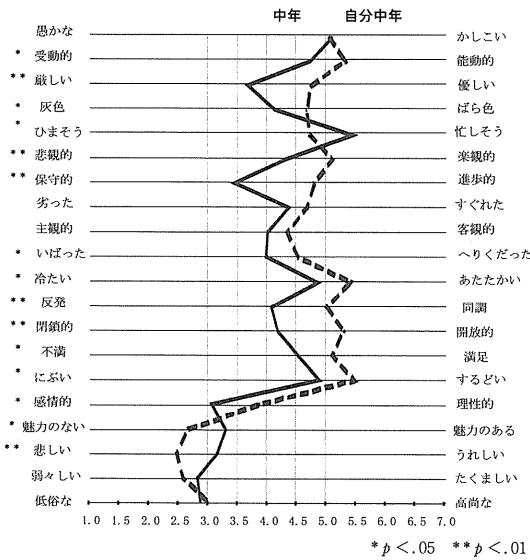


Fig. 5 カナダにおける中年と自分中年のイメージの比較

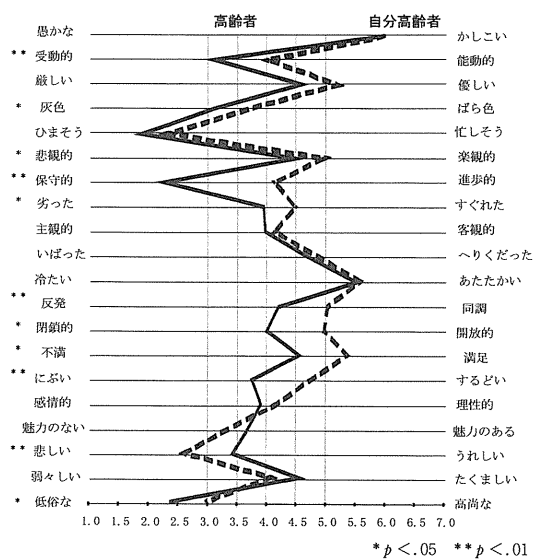


Fig. 6 カナダにおける高齢者と自分高齢者のイメージの比較

Table 4 各イメージにおけるt検定による日本とカナダの比較

	中年	高齢者	自分中年	自分高齢者
愚かなーかしこい	5.94**	6.08**	4.33**	7.13**
受動的ー能動的	4.48**	-1.89	5.39**	0.91
厳しいー優しい	1.15	-0.68	2.13*	0.76
灰色ーばら色	6.72**	-1.88	2.12*	-1.21
ひまそうー忙しそう	2.68**	-2.52*	0.09	-1.27
悲観的ー楽観的	3.99**	0.94	2.74**	1.68
保守的ー進歩的	2.68**	-1.95	3.06**	2.29*
劣ったーすぐれた	3.31**	1.47	2.69**	2.95**
主観的ー客観的	0.62	0.57	1.41	-0.06
いばったーへりくだった	2.78**	3.14**	3.43**	3.66**
冷たいーあたたかい	4.35**	-0.22	3.36**	1.32
反発ー同調	0.93	-0.83	3.83**	2.28*
閉鎖的ー開放的	2.63**	-0.71	3.64**	2.01*
不満ー満足	6.71**	2.36*	5.06**	4.21**
にぶいーするどい	7.57**	3.17**	5.96**	5.17**
感情的ー理性的	-3.57**	0.71	0.11	0.33
魅力のないー魅力のある	-5.46**	-1.00	-4.32**	-2.33
悲しいーうれしい	-6.97**	-2.81**	-5.06**	-4.42**
弱々しいーたくましい	-5.27**	-1.69	-3.63**	-1.49**
低俗なー高尚な	-7.57**	-5.62**	-3.42**	-3.69**

*P < .05 **P < .01

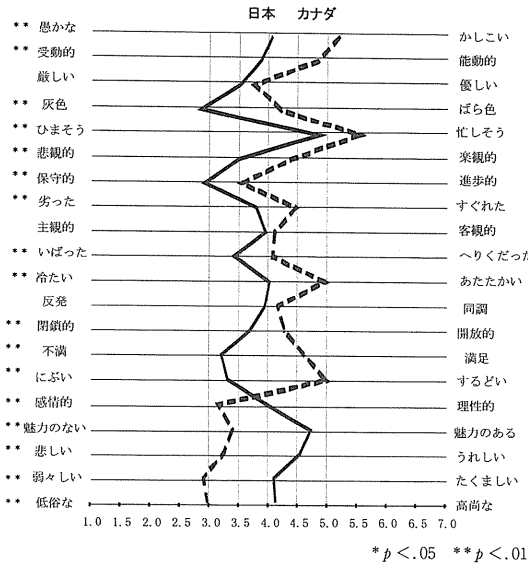


Fig. 7 日本とカナダにおける中年のイメージの比較

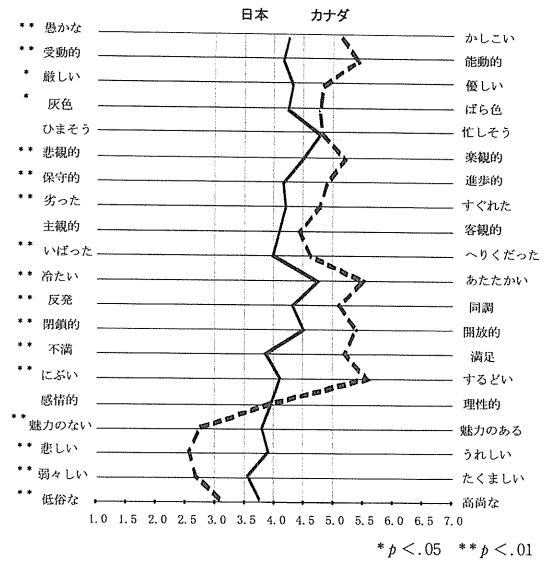


Fig. 9 日本とカナダにおける自分中年のイメージの比較

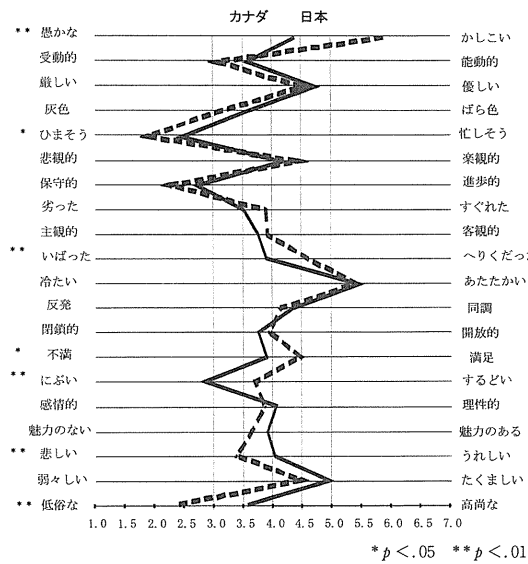


Fig. 8 日本とカナダにおける高齢者のイメージの比較

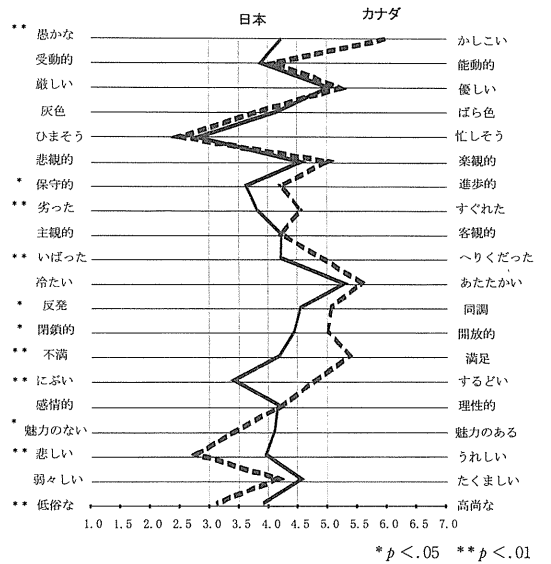


Fig. 10 日本とカナダにおける自分高齢者のイメージの比較

Table 5 各質問における日本とカナダの特徴

	中 年	高 齢 者	自 分 中 年	自 分 高 齢 者
日 本	全体的にネガティブ	ポジティブと ネガティブ半々	全体的にネガティブ	ポジティブと ネガティブ半々
カナダ	全体的にポジティブ	ポジティブと ネガティブ半々	全体的にポジティブ	全体的にポジティブ

考 察

本調査では、現代の青年が中年と高齢者にどのようなイメージを抱いているかを明らかにすることが目的であった。結果から、日本の青年は全体的に現在の中年に対してはネガティブなイメージを抱いていることが明らかになった。そのことは、カナダの青年と比較した場合、より顕著であった。これは、マスメディアなどから「疲れた中年」「リストラされる中年」などの情報があふれており、そのような情報を接してきたことにより、中年に対してあまりよい印象が形成されていないのではないかと解釈される。

また、現在の中年に対するイメージと自分が中年になった時のイメージでは、全体的に自分が中年になった時の方がポジティブな評価であった。同様のことが現在の高齢者に対するイメージと自分が高齢者になった時のイメージについても指摘できる。このような傾向は、日本とカナダに共通して見受けられた。本調査で対象となった青年は「自分がその年齢に達してもああはならないだろう」という思いを強く抱いているのではないだろうか。さらには、彼らの現在の中年や高齢者のような状況にはなりたくないという考えを反映しているのかもしれないと推測される。

一方、高齢者のイメージは、日本とカナダどちらとも「あたたかい、優しい」などのポジティブなイメージと「保守的、劣った」などのネガティブなイメージが半々であったと言える。高齢者に対するポジティブなイメージは、高齢者が人生経験を積み重ねることによって体得してきた知恵や判断、あるいは性格の温厚さに起因すると考えられる。また、ネガティブなイメージは、青年が老年期を身体的にも

精神的にも衰退・消滅期として受け止めていることを示唆しているのではないだろうか。日本とカナダの青年において、高齢者のイメージにそれほどの違いが見られなかったことから、日本とカナダの青年が抱く高齢者のイメージはある程度同様のものかもしれないことが推察された。

今後の研究では、カナダの調査対象者を増やし、日本との比較を行いながら、日本とカナダの高齢者、および中年イメージに影響している要因の検討を行うことが必要であろう。

引用文献

- 東山紘久 1992 男性における中年期の危機・意味・課題 中年期のこころ その心理的危機を考える 氏原 寛・東山紘久・川上 範夫 (共編) Pp. 1-14.
- 保坂久美子・袖井孝子 1988 大学生の老人イメージ 社会老年学, 27, 22-25.
- 小泉美佐子・上本純子 1990 看護学生の老人イメージ—Semantic Differential 法による分析— 筑波大学医療技術短期大学紀要, 11, 33-39.
- 佐藤泰道・長嶋紀一・小野寺富男 1976 老化イメージ (3)・形容詞対による評定について 浴風会調査研究紀要, 59, 73-76.

謝 辞

本論文の作成にあたり、カナダで調査を実施していただきました University of Victoria の Stephen Lindsay 先生に心より感謝いたします。

(受稿3月31日：受理5月21日)